

人生の糧となる経験と感動を約束する船旅



学校法人東海大学理事長
海外研修航海
企画委員会委員長

松前 義昭

学校法人東海大学では毎年、大学が所有する海洋調査研修船「望星丸」で海外研修航海を実施しています。1968年の第1回航海から数えて今回で50回目にあたり、これまで参加した学生数の累計は3,832名にのびます。

私も学生時代に研修航海に参加しており、その後の人生を歩む上で、大切な経験を積むことができました。飛行機なら半日で到着する場所にも、船旅では何日もかけて移動するしかありません。その間に目にすることができるのは、刻々と変化する自然の美しさと厳しさです。見渡す限りの大海原に浮かぶ自らの存在と、行動を共にする仲間たちの存在を肌に感じたとき、自然と共生することの大切さが「経験」として受け止められ、人間として大切なことを実感できました。

私たちはいま、インターネットや画像処理、データ集積といったデジタル技術の発達によって高度な情報社会に生きています。検索エンジンの画像マップを使えばいつでも世界中の街角に立ち、SNSで世界中の人たちと交流ができるようになりました。

これらの技術革新は私たちの生活をとても便利にしてくれましたが、一方で、効率だけを優先する風潮や、疑似体験で十分といった危うい認識を生むようになりました。人生を歩む上で本当に大切な、人との関わりや生きた知識を得るためには、非効率に思えても、十分に時間をかけて自らの努力と経験、考察を積み重ねるしかありません。机上で得られた知識を真に価値あるものにするのは、経験と考察だと思います。

海外研修航海には、素晴らしい経験を積み重ね、考察を深められる

貴重な環境と特別なプログラムが用意されています。今回は、仏領ポリネシアまで飛行機で移動し、そこで望星丸に乗船してチリ領のイースター島を目指します。さらにサモア独立国、ミクロネシア連邦を巡行して横浜に帰港する計画です。

日本人にはモアイ像のイメージが強いイースター島ですが、古(いにしえ)の文明のみならず、歴史に翻弄された島民について学び、現在の島の暮らしや環境に触れることで、人類普遍の課題にも考察が広がることでしょう。イースター島への訪問は、半世紀の節目を飾る航海で初めて実現した特別な計画です。人類史の奥深さに触れ、自らの世界観や人生観を育む上で貴重な体験になるでしょう。また、船内という限られたスペースで教師や仲間と寝食を共にし、人生を語り、訪れる国の人々や文化と向き合い、ありのままの自然に触れることができる47日間です。

学園の創立者・松前重義は入学式や卒業式等でもよく、「学生時代に“生涯の友”を持ちなさい」と話しておられました。若き日に体験する感動や発見を共有した仲間たちとの関係は、生涯の友として長く続くものとなり、大きな財産となります。

太平洋に浮かぶ絶海の孤島・イースター島を船で訪ねるといふ、一生に一度、体験できるかどうかの大いなる旅のチャンスが、いま皆さんの目の前に用意されています。南太平洋の島々を巡る47日間の船旅は、人生の糧となる経験と感動を皆さんの心に刻み付けてくれるでしょう。第50回海外研修航海への積極的な参加を期待しています。

第50回海外研修航海 募集要項

■研修目的

この航海は、本学の海洋調査研修船「望星丸」を使用し、海外の諸文化・諸事情に触れ、実体験を通して、国際的視野に立った世界観・人生観の確立を目指します。また、船内という限られた生活環境の中での共同生活を通じた人間形成を目的とします。

■研修内容

学園傘下の高等教育機関から参加した学生が団役員とともに共同生活を営み、英会話講座や洋上講座、寄港地に関する調査・発表、天文クラブ等学生主体のクラブ活動や、救命救急訓練を行います。また、洋上卒業式等のさまざまな行事を団役員とともに創り上げ、寄港地では大学訪問、グループ別自由研修、寄港地の人々を招く船上交流会を行います。正に、洋上のキャンパスです。

■募集概要

- ・応募資格：東海大学、東海大学短期大学部、東海大学医療技術短期大学の学生
- ・募集人数：98名
- ・研修期間：2019年2月9日(土)～3月27日(水)47日間
- ・使用船舶：東海大学海洋調査研修船望星丸(2,174トン)
- ・コース：成田空港(空路移動)→仏領ポリネシア(タヒチ)→イースター島(ハンガロア)→サモア独立国(アピア)→ミクロネシア連邦(ポンペイ)→神奈川(横浜)
- ・参加費用：498,000円※①日本国内における交通費、自由研修中の費用、パスポート及び査証申請費用は含まれません。※②留学生についての詳細は、所属校舎の学生課・教学課・事務室に問合せください。※③燃料価格の動向によっては燃油サーチャージを徴収することがあります。
- ・参加申込：①所属校舎の学生課・教学課・事務室で応募手順を確認してください。
②応募書類(①エントリーシート、②小論文用紙、③健康調査シート)を国際教育センター事務室のウェブサイトよりダウンロードし、指定されたアドレスにe-mailで送信してください。
- ・申込期間：2018年7月上旬～10月4日(木)
- 参加申込後の日程等(予定)
- ・選考：研修学生は、参加申込者の中から選考により決定します。
- ・選考日：10月中旬を予定。面接場所や日程は所属校舎の学生課・教学課・事務室が指示します。
- ・選考方法：選考は、面接により本研修への志望動機をはじめとする応募者の意志を確認するとともに、日頃の学業成績・出席状況・提出書類を判断材料とします。さらに、船という特殊な環境で長期間過ごすことを考慮し、参加者の生命を守り航海の安全を確保する観点から、健康調査(GHQ、MAS)を行い、健康調査シート、健康診断書の結果を加味し、総合的に審査します。
- ・発表日：2018年11月26日(月)
- ・参加手続：2018年11月26日(月)～12月7日(金)
- ・必要書類を所属校舎の学生課・教学課・事務室へ提出し、参加費用498,000円を手続期間内に納入してください。納入後、自己都合により参加を取り消す場合は、原則として以下の基準により返金を行います。※但し、振込手数料は本人負担。
◇参加手続期間内(参加許可発表日当日～参加費納入・必要書類提出締切日当日)全額返金(実費は除く)
◇参加手続期間終了日翌日～事前研修開始日7日前……………参加費用の90%返金
◇事前研修開始日6日前～事前研修開始日前日……………参加費用の70%返金
◇事前研修開始日～事前研修期間内……………参加費用の50%返金
◇事前研修終了日翌日～出港当日……………返金なし
- ・渡航手続：パスポート及び査証(ビザ)等の手続きは、旅行代理店より連絡があるので、その案内に従ってください。
- ・事前研修：2018年12月23日(日)～12月25日(火)、東海大学三保研修館(静岡市清水区三保)にて行います(開催地までの交通費は自己負担)。なお、事前研修に不参加の場合は、原則として研修航海への参加資格を取り消します(※補講受講者は、補講が優先されるので、事務局に問い合わせること)。また、研修に対する取組みが不適切と認められる場合も参加を取り消すことがあります。
- ・旅行保険：主催者が以下の保険を参加者に対して加入しますが、各自で別途、任意の海外旅行傷害保険に加入しても差し支えありません。
傷害死亡……………5,000万円 傷害後遺障害……………150万円～5,000万円(障害の程度に応じて)
治療・救済費用……………2,000万円 疾病死亡……………3,000万円
賠償責任……………10,000万円 携行品……………30万円 ※補償項目、金額は予定
- ・その他：◇参加申込後の日程等、詳細に関しては随時通知します。
◇天候等の事情で研修日程やプログラム等が変更になる場合があります。特に卒業対象者はその旨を理解したうえで申し込んでください。
◇病気その他のいかなる理由にせよ、大学が計画した交通機関以外で帰国した場合の費用は、自己負担となります。
◇留学生は研修地の査証が入手できない場合、または在留期限までに再入国できない場合は参加資格を取り消すことがあります。

■単位の認定

東海大学の学生は、①事前研修への参加及び課題の提出、②洋上研修全日程への参加、③洋上研修終了後の課題及び修了証授受の3要件を満たすことにより、自己形成科目「海外研修航海実習」4単位が付与されます(複数回参加した場合でも単位の付与は1回とします)。なお、東海大学以外の高等教育機関については、所属の事務室まで問合せてください。

■団役員の構成(予定)

団長1名、副団長1名、団役員(医師)2名、団役員(看護師)1名、団役員9名の計14名

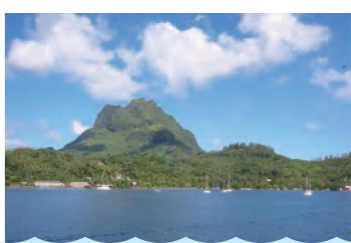
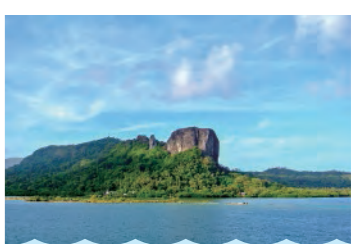
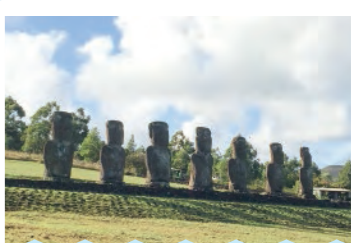
Think Ahead, Act for Humanity

～先駆けであること～



SINCE 1968

海外研修航海



応募期日	2018.10.4(木)まで
寄港地	成田空港 ▶ 仏領ポリネシア(タヒチ) ▶ チリ領イースター島(ハンガロア) ▶ サモア独立国(アピア) ▶ ミクロネシア連邦(ポンペイ) ▶ 横浜(大さん橋)
参加費用	498,000円 ※仏領ポリネシアまでの空路、寄港地における地上研修(ツアー)、船内での全食事の費用が含まれます。
応募のお問い合わせは、所属校舎の教学課、学生課、事務室まで	主催/学校法人 東海大学 事務局/東海大学国際教育センター事務局 TEL 0463-50-2086



未体験の航海に飛び出そう

1968年の第1回以来、3832名が参加してきた海外研修航海。第50回を記念して山田学長と過去の参加者にそれぞれの体験や思いを語ってもらいました。

山田 清志
東海大学 学長

新井 陽子
第40回 学生長(教養学部卒)

増尾 勇哉
第49回 副学生長(文学部)

地球人としての感性を磨き 新たな自分の可能性を発見する

【山田学長】海外研修航海の魅力は、約1カ月半もの間、約100名の学生が寝食をともにする濃密な日々を通じて、社会人に欠かせないあらゆる力が身につく点にあります。船をキャンパスに学生を教育するという発想は、「Boys Be Ambitious!」で有名なW.クラークが提唱したものでした。それを実現させたのが本学の創立者・松前重義博士なのです。

【新井さん】私が研修航海に参加したのは、「個人旅行では行けない場所に船で行ける」ことに魅力を感じたからです。

船内での共同生活では、自分の視野の狭さに気づくと同時に、ストレスがかかる環境下でも

めげないタフさが鍛えられたと思います。学生長を務めながら、自分ができることを考え、毎晩のように仲間と意見を出し合っていました。密度が濃い時間を過ごしたメンバーとは今でもつながっていて、絶対の信頼を置ける友人になりました。

【増尾さん】私は、周りとの協調性を深めたいと思ったのが参加のきっかけでした。当時は3年次生で、就職活動が始まっており、航海で得た知識や考え方を活用できればという気持ちもありました。

船内の生活は、日常生活とは全く違います。スマートフォンは使えず、当然、頼れません。また、他の参加者との距離が近い濃密な時間に、序盤こそ息苦しさを感しましたが、日を追うごとにコミュニケーションをうまく取れるようになりました。これは私にとって大きな成長で、「地球人」と

での感性も磨かれたように思います。
【山田学長】研修航海が始まった約50年前は、個人旅行はまだ一般的ではなかったため、研修団は海外の国々と交流する親善大使の役割を担っていました。しかし、現在では日常から離れて学生の皆さんが飛躍的に成長できる人間教育の場としての機能が大きくなってきましたね。



航海のすべてが財産になる 東海大生にしかできない経験

【新井さん】寄港地で印象的だったのはミクロネシアのナン・マドール遺跡で保存活動をしていた海外青年協力隊の姿でした。また、ある寄港地で、現地の子どもから「1ドルちょうだい」と言われた経験は忘れられません。その時どう対応すべきだったのかを考え続ける中で、自分の専門である美術を通じ開発途上国に役立つ道はないかと探るようになりました。研修航海での経験が



人生の分岐点になり、今はメキシコで文化遺産の保存・管理に携わっています。

【増尾さん】私は、寄港地の自然環境が目には焼き付いています。マンタの群れと遭遇したり、マーシャル諸島のマジロロでは有名なブルーラグーンでカヌーをしたりと貴重な体験をしました。サモアのアピアで開いた現地の人々を招いての船上交流会も思い出です。日本文化を理解してもらおうと皆で話し合い、輪投げや紙芝居、ヨーヨー釣りを用意したところ、参加者が非常に興味を持ってくれたのが印象的でした。

【新井さん】船内では、交流イベントの企画以外にも、スポーツ大会や洋上卒業式を学生たちが企画して実施しました。当時4年生だった私は洋上卒業式があまりに感動的で、リハーサルから泣いてしまい、皆に笑われました(笑)。

【増尾さん】私は、団員役の先生が担当する洋上講座でオリンピック精神について学んだことを鮮明に覚えています。「人生で大切なことは、成



功することではなく、努力することである」という言葉は私の宝です。船内生活のあらゆる部分に発見が潜っていました。それが海外研修航海であると実感しました。

【山田学長】東海大学は学生が仲間と協力しながら課題に挑み、さまざまな力を身につける実践的な教育を重視しています。その象徴がまさに「海外研修航海」です。参加する皆さんにとっては、東海大学生としてのゆるぎないアイデンティティを確立するチャンスにもなることでしょう。50周年の節目でもあり、後世に残る航海に、ぜひ応募してください。

望星丸 乗る前、乗った後

経験は自分だけのモノ

1年生の時には勇気が出なくて参加せず、今回も悩んでいました。その時、「モノやお金は盗まれても経験は自分だけのモノになる」とのフレーズに心を動かされ、参加を決めました。副学生長を務め、今までにない充実した42日間を過ごし、船を降りてからも繋がれる仲間が全キャンパスにできる等、東海大学でしかできない経験ができました。一歩踏み出せば大学生活がガラッと変わります。勇気を出して経験することの大切さを学んだと思っています。



▲観光学部 柳原 七海

寄港地の魅力

寄港地に着く前は、キレイなビーチや海等豊かで明るい場所を想像していました。ところが実際に降り立つと未舗装の道路や、処理しきれずに山積みされたゴミの山を目にしました。明るい光景を想像していた私にとって、とても衝撃的でした。しかし私は、別の魅力を見つけることができました。それは現地の方々の温かさです。すべての寄港地には写真に写る美しさと写らない美しさがあり、またその逆もありました。整備された観光地を訪れるよりもはるかに勉強になったと感じています。



▲工学部 谷川 輝

航路&寄港地

2019. 2. 9 SAT - 3. 27 WED

タヒチ Tahiti

タヒチ島はフランス領ポリネシア最大の島で、大タヒチと小タヒチの2つの島で構成されています。市街地は近代的な街並みにエキゾチックな雰囲気漂わせる一方、郊外にはタヒチならではの自然が残っています。



タヒチから
望星丸に乗船

Tahiti 2/9 - 12

イースター島 Easter island

イースター島は、モアイが立つ島として有名で、周囲にはほとんど島らしい島が存在しない絶海の孤島となっています。地球上でもっともミステリアスな場所の1つであるこの島に思いを巡らせましょう。



Easter isl. 2/20 - 22

サモア Samoa

南太平洋のポリネシアにあるサモア諸島の西側を占める島国で、「世界で最も早く太陽が昇る国」でもあります。主な観光名所であるスティーブンソン博物館やティアビの滝、洞窟プールも必見です。



Samoa 3/7 - 9

ミクロネシア Micronesia

島のハードコーラルの珊瑚礁とカラフルな海溝は感動的。オセアニア最大の広さを持つ、巨石でできた水上遺跡「ナン・マドール遺跡」があります。



Micronesia 3/17 - 19

タヒチまでは
空路利用

横浜港へ帰港

3/27 横浜着

#baybridge